

## イチゴの病害防除を徹底しましょう

### ～うどんこ病、炭疽病

例年、本圃への定植やその後の保温を開始するハウスのビニール被覆を始める前は、病害虫の防除を徹底する時期です。

イチゴ栽培では、特に保温開始後は施設内が増殖に適した環境になるため、この時期における病害虫の防除徹底に努めてください。

防除が手遅れになってしまうと、農薬を散布しても発生を抑えることが難しくなってしまいます。特に、炭疽病は一度発生すると薬剤による治療効果が期待できませんので、予防散布を心がけて防除を行って下さい。



図1 果実が発生したうどんこ病



図2 茎が発生したうどんこ病



図3 炭疽病によるクラウン断面



図4 炭疽病によるしおれ

(褐色の変色腐敗) (図2,3,4 病害虫防除所)

#### 防除のポイント

- 1) 初発生を見逃さないよう、葉裏や葉柄、果梗、果蕾および株元などを丁寧に観察し、発生を認めたら早期に薬剤防除を実施し、葉裏や下葉、株元等にも薬液がよくかかるよう丁寧に散布することが特に重要です。
- 2) 古い下葉を除去した後や、多発した株または罹病葉や葉柄、果梗、果実などを除去してから薬剤散布を行います。
- 3) ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響についてメーカーや関係機関の指導を受けるなど注意してください。
- 4) 連続して薬剤を使用すると、抵抗性や耐性菌の出現しやすい傾向がありますので、分類の異なる薬剤でローテーション散布してください。
- 5) 被覆後には硫黄粒剤のくん煙処理が可能です。その際は専用の電気加熱式くん煙器を利用してください。

表1 イチゴ うどんこ病の主な防除薬剤 (令和5年10月3日現在)

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※	分類
アフェットフロアブル	2,000倍	収穫前日まで / 3回以内	1日	7
ジーファイン水和剤	750~1,000倍	収穫前日まで / -	○	M1とNC
トリフィン水和剤	3,000~5,000倍	収穫前日まで / 5回以内	○	3
パンチョTF顆粒水和剤	2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	○	3とU6
フルピカフロアブル	2,000~3,000倍	収穫前日まで / 3回以内	1日	9
モレスタン水和剤	3,000~4,000倍	収穫前日まで / 2回以内	3日	M10

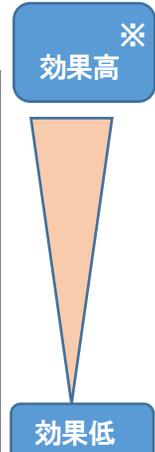
注1) 各表のミツバチ※は、ミツバチへの影響の目安を茨城県病害虫防除指針(令和5年版)より抜粋しました。○は薬液が乾けば影響なし、その他は影響日数を記載しましたが、天候、施設内の環境条件により日数が前後することがあり、注意が必要です。

注2) 分類欄には、FRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 イチゴ 炭疽病の主な防除薬剤 (令和5年10月3日現在)

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	ミツバチ※	分類
ジマンダイセン水和剤	600倍	仮植栽培期(収穫76日前まで) / 6回以内	○	M3
アントラコール顆粒水和剤	500倍	仮植栽培期 / 6回以内	1日	M3
セイビアフロアブル20	1,000倍	収穫前日まで / 3回以内	○	12
デランフロアブル	1,000倍	育苗期 / 2回以内	○	M9
ベルコートフロアブル	1,000倍	育苗期(定植前) / 5回以内	○	M7
オーソサイド水和剤80	800倍	収穫開始14日前まで / 5回以内	1日	M4
ゲッター水和剤	1,000倍	収穫開始21日前まで / 3回以内	○	1と10
キノンドーフロアブル	500~800倍	育苗期 / 3回以内	-	M1

※ 農業総合センター園芸研究所 平成21年度病害虫研究成果 「イチゴ炭疽病に対する防除効果と効果の持続期間」より



- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。